

令和7年 5月 2日 (金)

あさひの日だまり

NO.5

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～前期児童会がスタート～

児童総会がありました



木曜日に第1回児童総会が開かれました。今回の児童総会では事前に議案書に対する意見・質問を集約しておいて役員はそれに対する答弁を行いました。したがって総会の場面ではそれ以外の点についてさらに意見・質問がある人たちが発表するという形をとりました。今までの総会では多くの発言者が列になり、時間の制限もあり一部の意見・質問しか取り上げられないという課題がありましたのでそれに対する解決策を考えてくれたわけです。こういう工夫

を考えたり緊張する場面で自分の考えを語ったりするという経験は子どもたちにとって「頑張れたぞ!」という気持ちが湧いてきて自信を深めるかけがえのないチャンスになっていると思います。

今回の総会では今年度の児童会のテーマも承認されました。テーマは「全校が思いっきり楽しめる東小!～みんなが笑顔で楽しめる学校～」です。

校長として私が目指す東小は「楽しい学校」です。私は、子どもたちと気持ちが1つになれたように思いとても嬉しく感じました。子どもたち自身も学校が楽しいところであって欲しいと願っているのです。それは当然だと思います。朝から晩まで学校で過ごしている子どもたちにとっては学校での生活がつまらなかつたら本当に苦痛です。

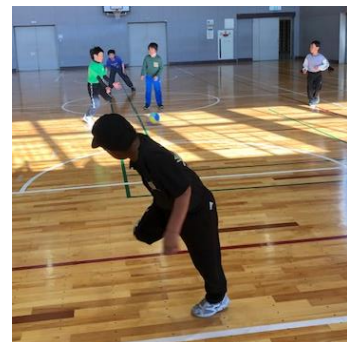
私たち教職員も目の前の子どもたちのために子どもたちと力を合わせて楽しい学校創りに頑張って取り組んでいきたいと思っています。

～下校時間を15分早めました～

工夫して時間を使えたらいいですね

下校時間を4:05から3:50分に早めました。その分放課後の時間が子どもたちのために確保できました。使い方は基本的に子どもたちに任せています。家に帰ってやりたいことに取り組んでももらいたいですし、お手伝いもして欲しいですし、友だちと楽しく遊んでももらいたい。自主学習に取り組む人がいたらすごいなとも思っています。

学校で遊んでいきたいという子もいると思いましたので、4:20まではグラウンドと体育館を開放しました。写真は初日の体育館とグラウンドの様子です。友だちと楽しそうに遊んでいました。



昨年度までは午後15分学習の時間を確保していました。今年度その時間を自由時間に回しています。15分学習も有効に利用すれば大切な時間になると思います。新しい取り組みが子どもにとって主体的な活動の時間にならなくては意味がありません。

良い成果を上げられるかどうかしばらく様子を見て先生方や子どもたちの声を聞いてみたいと思います。

保護者の皆様も気が付いたことがありましたら学校までご連絡いただけたら嬉しいです。

よろしくお願いします。

～連休中にも子どもたちが活躍しました～

それぞれの場所で一生懸命頑張りました

連休中に子どもたちが関わる行事がいくつかありました。私が聞き知ったこと以外にもきっとあちこちで子どもたちは活躍していたに違いありません。「野球が一日8時間もあったんだよ」「バスケの選手の選考があったんだよ」と話してくれた児童もいました。できれば子どもたちの頑張る姿を直接見て応援したいと思い、2つの行事へ足を運びました。その様子を少し紹介してみます。

一つは長野県市町村駅伝です。小学生の部に辰野東小学校から3名の選手が出場しました。今まで小学生駅伝を見たことがなかったのでこの機会にぜひ応援したいと思い出かけました。場所は松本市の松本空港周辺の公園です。

会場に一步足を踏み入ると、スタートまで1時間以上ありましたが小学生はチームごと集団になってランニングを繰り返していました。会場を歩いていると辰野町チームの小学生とコーチに出会い「頑張って!」と声をかけることができました。選手は笑顔で返してくれましたがその笑顔には緊張感が感じられました。

一般の部の選手の皆さんは一人ひとり思い思いに体を動かしてウォーミングアップをしておられました。辰野町のチームには本校の卒業生が二人と保護者の方お一人が出場することになっていました。

小学生のスタートラインに少し早めに行って前の方のよく見える場所を取りました。小学生のスタート時刻が近くにつれて第一走者がスタートラインに集まってきました。次第にざわめきが消え緊張感が高まっていくのを傍らにいた私も肌で感じました。私の鼓動も少しずつ早まっていきました。出場する子どもたちの緊張感はいかばかりでしょうか。心の中で「頑張れ!」と声をかけました。

ピンと糸をはりつめたような緊張感の中号砲がとどろき選手は一斉に飛び出していきました。ゼッケン番号で辰野町の選手を探しながら目で追いました。辰野町のゼッケン番号を見つけると本当に嬉しくなりました、そして、長野県中の小学生と混ざってすごいなと感心しました。選手の皆さん本当によく頑張りましたご苦労様でした。



小学生に続いて一般の部も見えてきました。県下のトップランナーも出場しているのだと思います。思わず「速い」と声が出てしまいました。本校の卒業生が中学生区間を二人走りました。小学校時代より一回り背が伸びて「ランナー」として独り立ちしている感じが感じられました。小学生時代に比べ一段と速いスピードで目の前を通過していきました。今後の活躍を応援します。

二つ目は法性神社の御柱休めのお祭りです。これは4年前に行われた御柱の柱を7年間の間の年に寝かせ、御柱から神様が離れて元の木にもどるお祭りなのだそうです。こういったお祭りを私は初めて経験しました。

柱は4本あります。それぞれの木には担当の地区が決まっているということも初めて知りました。それぞれの柱の下に何人もの人たちが集って木やりをしているということの理由がわかりました。

数日前、校長室へ下町にお住まいの方がたずねてこられ「先生、もし法性神社へ来るようならこの法被を着てもらえれば」とおっしゃって法被をおいていって下さいました。神社へ向かう道すがらはちょっと照れくさくて手に持って行きましたが、鳥居の向こうに同じ法被を着た方たちの姿が見えてきましたので私も勇気を出して法被を着ました。

境内へ入ると「先生こっちこっち」と同じ法被を着た方たちが声をかけて下さり自然に私はその集団に吸収されていきました。そうになるとなんだか法被を着ていることが誇らしくなってその後は一緒に木やりの声を出したりおどったりしてあっという間に時間が過ぎました。

私のすぐ前で何人かの子どもたちが法被を着て木やりをしています。「この子たちはまさに地域文化の継承者になっていく子どもたちだ」と思うとその小さな背中がなんだかとてもたくましく感じられました。

